

風水景観と印象評価の関係性に関する研究
—韓国農村集落における風水景観に関する研究 その17—

正会員 ○樋口 夏希*1 同 野村 優太*1 準会員 矢次 延行*2
正会員 姫野 由香*3 同 佐藤 誠治*4

7. 都市計画 — 6. 景観と都市設計 c. 景観イメージ・景観評価
韓国 風水 地形構造 印象評価 相関分析

1.はじめに

本研究のその16¹⁾においては、一対比較法を用いた風水景観を持つ集落の印象評価とマーキング、自由記述による風水景観における印象に残る要素の抽出とその考察を行った。本稿では、風水からみる地形構造的特徴を把握した後、その16にて得られた印象評価の結果を比較することにより、風水理論と風水集落を俯瞰した際の景観に対する印象の関係性について分析を行う。

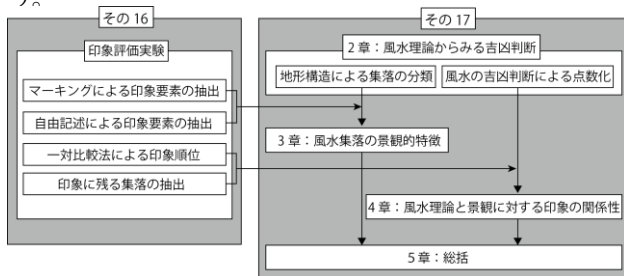


図1 研究フロー

2. 風水からみる各集落の吉凶判断

2-1. 研究の方法

この章では風水理論を用いて、地形構造的特徴から対象集落の風水的吉凶を判断し、点数化を行う。対象集落は、その16における印象評価との比較を行うため、前稿と同様に17の集落を対象とした。

風水によって集落選定を行う方法には大きく「理気」、
「巒頭(らんとう)」の2つがある。理気とは、陰陽五行や方位など目に見えないもので判断する方法であり、また、巒頭とは、その土地の気の勢いや質を目に見える、形あるもので判断する方法である。本稿では、風水集落における景観という観点から分析を行う為、景観と関係性が高いと考えられる巒頭による判断をもとに、研究を進める。また、風水理論には様々なものが存在するが、本研究で用いる風水理論は、巒頭による山脈の連なりの判断を行う「龍法」と、水の形と流れの判断を行う「水局」の2つである。

2-2. 龍法からみる各集落の吉凶判断

地形構造的な特徴から、龍法を元に集落の分類と吉凶判断を行う。龍法における龍とは地勢の起伏のことであり、龍脈、山脈、気脈とも呼ばれる。龍法では山の起伏具合や整備状況が判断の基準となる為、集落周辺の広域地図とパノラマ写真を用い、地形構造と景観という2つの観点から分類を行った。

参考とした呉佳錡・山道帰一著「完全定本【実践】地理風水大全²⁾」では、龍法の種類と判断方法について図2のように述べている。本研究の対象地ではこの5種類のうち、活龍と赤龍の2つを確認した。

活龍とは、山が一節一節、瘤のように起伏があり、美しい稜線を描いているものである。また、赤龍とは開墾整理が行われた山や山道を通された山、土砂崩れや地震で山の一部分が崩れている状態の山のことを指す。

さらに、風水的吉凶を点数化して表すため、風水的に吉とされる項目には1点、凶とされる項目には-1点として点数化を行った。詳細は後掲の表1に示す。

	写真	内容	評価点
活龍		山が一節一節、瘤のように起伏があり美しい稜線を描いて連なる山 気が充足した龍(山)とされる	1
死龍		起伏をつくり連なることなく、稜線が直線的になっている山 気が十分ではない龍(山)とされる	-1
騎龍		陰宅や陽宅が頂上に立っている山、もしくは稜線の上に人工物が乗っている山 子孫は皆果て、後代は途絶えるとされる	-1
赤龍		開墾整理された山や、山道を通された状態の山、もしくは土砂崩れや地震で山の一部分が崩れている状態の山 明堂は非常に凶であるとされる	-1
平地龍		平地の一つに出来あがる高く突き出た山 宝箱や宝珠、長者の象徴とされる	1

図2 龍法による分類表と評価点

2-3.水局からみる各集落の吉凶判断

前節同様、水局による集落の分類と吉凶判断を行う。水局とは、水の形と流れの判断のことである。穴^{注1)}に対する川の流れ方をみる為、集落周辺の広域地図を用い分類を行った。前掲文献によれば、水局には約40種類の水局が存在するが、今回の対象集落においては、玉帯水、虎順関、倉板水、拱背水、交剣水、金星水城、木星水城、水星水城の、図3に示す8つの水局を確認した。

	図	内容	評価点
玉帯水		明堂を取り巻く形の水 腰の帯のように流れる形が理想とされる 主を守り財と富貴に富むとされる	1
金星水城		湾曲し、明堂を環のように抱いている形の水 健康にもよく財をなすとされる	1
木星水城		明堂の前を真っ直ぐに流れる水 勢いよく流れが速ければ無情の水となり、 凶とされる	-1
交剣水		穴の前で交わる形の二つの水 子孫が絶える象徴とされ、凶とされる	-1
水星水城		明堂前の曲がりくねった水 社会的な地位が高くなり、財に富むとされる	1
拱背水		穴の後ろを取り巻く形の水 発財が長く続き、富貴に恵まれるとされる	1
倉板水		穴の前の田が徐々に低くなり、穴に向かって 流れてくる水 大いに儲けて財が厚くなるとされる	1
虎順関		白虎砂が伸びて青龍砂を包む形をしている 明堂から見て、左回りに流れる水 金銭の消費がはげしくなり、凶とされる	-1

図3 水局による分類表

また前節の龍法と同様に、風水的吉凶を点数化して表すため、風水的に吉とされる項目には1点、凶とされる項目には-1点を与えた(表1)。また玉帯水については、明堂^{注2)}を取り巻く腰の帯のような形の水の流れが理想とされている為、図4のような最も理想的な形をもった集落については1点ずつ加点了。



図4 玉帯水の加点点基準

表1 龍法・水局による分類、及び風水的吉凶を表す点数表

集落	龍法		水局										合計 点数
	活龍	赤龍	玉帯水	玉帯水(加点点)	虎順関	倉板水	拱背水	交剣水	金星水城	木星水城	水星水城	水星水城	
A	1	-1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	
B	1	-1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	
C	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
D	1	-1	0	0	0	0	0	0	0	-1	0	-1	
E	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
F	1	-1	1	0	0	0	0	-1	0	0	0	0	
G	0	0	1	0	0	1	0	-1	1	0	0	2	
H	0	0	1	0	-1	1	1	0	1	0	0	3	
I	0	-1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	3	
J	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	5	
K	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3	
L	0	-1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	5	
M	0	-1	1	0	0	1	0	-1	1	0	0	1	
N	0	-1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	4	
O	1	0	1	0	0	0	0	-1	1	0	0	2	
P	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	4	
Q	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	

3. 風水集落の景観的特徴

地形構造的な特徴毎に景観の特徴の把握を行った後、前稿で得られたマーキングの集計図や印象要素との比較を行い、風水理論と景観の関係性について考察を行う。まず印象要素の抽出に用いたパノラマ写真の撮影方向の違いを考慮する為、各集落のパノラマ写真の撮影地点を、風水における四神^{注3)}方向(図5)を基準として確認を行った(表2)。また、青龍、朱雀、白虎の山が図5のように分かれておらず1つの連なりとなっており、判断がつけにくい場所に位置している視点場については、ダブルカウントとしている。(例:集落H)



図5 風水における四神方向

表2 各集落の視点場

集落	視点場	集落	視点場
A	朱雀	J	白虎
B	朱雀	K	白虎
C	朱雀	L	朱雀
D	朱雀	M	青龍
E	青龍	N	朱雀・白虎
F	青龍	O	朱雀・青龍
G	朱雀	P	白虎
H	朱雀・青龍	Q	朱雀
I	朱雀・青龍		

3-1. 活龍をもつ集落の景観的特徴

表1の通り、活龍をもつ集落はA(ドゾン里), B(ドダン里), C(ドッチョン里), D(ジュチョン里), E(パンウン里), F(ジュン里), J(ドッチョン里), O(サムガン里), Q(マエ里)の9つである。視点場は朱雀を含むものが6集落、青龍を含むものが3集落、白虎を含むものが1集落である為、同条件かつ2集落以上の比較対象が存在する、朱雀と青龍を視点場とする集落のみを考察対象とする。

図6より、活龍をもつ集落は、山々の重なりが確認でき、重畳感のある景観が生み出されている。また、表3は前稿で得られた好印象をもたらす要因から、山に関する回答のみを抽出したものであるが、「山の連なり」や「山の奥行」といった、山の存在感に対する印象を強く与えていることが確認できる。さらに、前稿において得られたマーキングの集計結果(図7)より、山に注目したものでは稜線が作り出すスカイラインが目を引き要素となっていることが確認できた。以上から、活龍をもつ集落は、山の重なりが視認されやすい重・畳感や奥行きのある景観であり、山の稜線が作り出すスカイラインが印象強い景観であることがわかった。

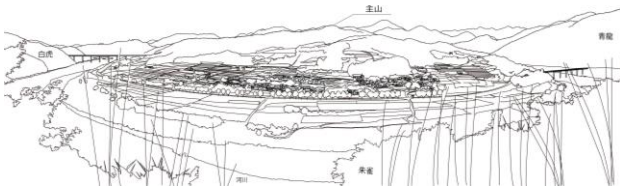


図6 集落Cパノラマ写真の線画

表3 自由記述から得られた好印象をもたらす要因

集落	抽出印象要因	回答数
A	建物と山のバランス	1
	山の存在感	1
B	山の形	1
C	背景の山	1
J	山の連なり(グラデーション)	2
Q	山の奥行	1

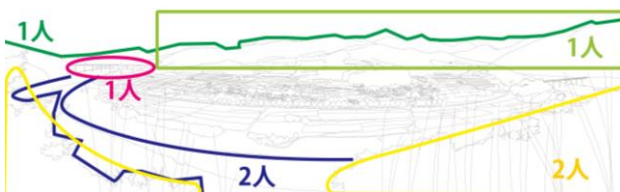


図7 集落Cにおけるマーキング例

3-2. 最も理想的な玉帯水をもつ集落の景観的特徴

表1の通り、最も理想的な玉帯水をもつとして加算1点を与えられた集落はA(ドゾン里), B(ドダン里), L(テウン里), N(テウン里)の4つである。視点場は全ての集落が朱雀を含む場所である為、同条件の元に撮影されたパノラマ写真であると考え、4集落全てを考察対象とする。

図8より、最も理想的な玉帯水をもつ集落は、写真においても川が円を描くような形で集落を取り巻く様子が確認できる。また表4から、「島が湖に浮かぶ感じ」や「中央の島の形」といった、空間的密集感に対する印象を強く与えていることが確認できる。また、「曲線(丸い形)」といった、円状の地形であることも好印象を与えていることが分かる。さらに、前稿において得られたマーキングの集計結果(図9)より、川と陸の作り出す境界線が認識しやすく、曲線を描くような景観が目を引き要素となっていることが確認できた。以上のようなことから、最も理想的な玉帯水の形をもつ集落は、川が円を描くような形で集落を取り巻く景観をもつことから、空間的密集感や川が作り出す境界線(曲線)が印象強い景観であることがわかった。

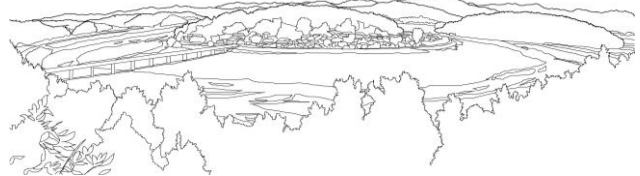


図8 集落Lパノラマ写真の線画

表4 自由記述から得られた好印象をもたらす要因

集落	抽出印象要因	回答数
B	島が川に浮かぶ感じ	3
	中心に島	1
	曲線(丸い形)	6
L	中央の島の形	3

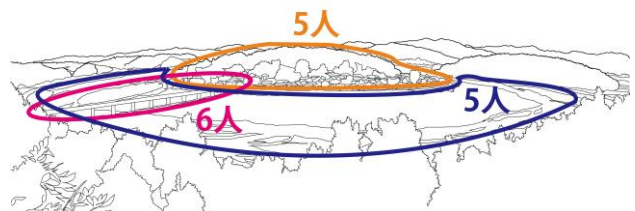


図9 集落Lにおけるマーキング例

4. 風水理論と景観に対する印象の関係性

4-1. 一対比較法による印象と風水の吉凶の関係

2章で得られた各集落における風水的な吉凶判断と、前稿において得られた一対比較法による各集落の印象順位の関係性を探る為、表5の「一対比較法による印象順位得点」と「風水吉凶による点数」に対して相関分析を行った。ただし、分析では観光地化が行われている集落L(テウン里)と集落P(ハウエ里)は対象から除外している^{注4)}。散布図と結果を図10に示す。

この図より、風水的な吉凶判断と、一対比較法による各集落の印象順位の間には1%水準で有意な関係が見られることが明らかとなった。

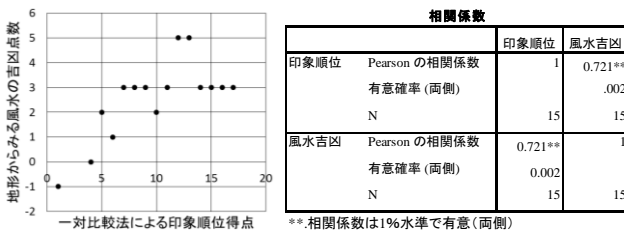


図10 散布図と相関係数

4-2. 好印象を与える集落と龍脈の見えの関係

前稿において得られた印象に残りやすい集落の集計結果と、龍脈の関係性についてカイ二乗検定を行う。表5の項目「龍脈の見え」は、各集落のパノラマ写真に龍脈が視認できるかどうかを表したものである。変数は主山の龍脈が視認できる場合には1点、龍脈が視認できない場合には0点として点数化を行った。また、「好印象票数-悪印象票数」は前稿において得られた印象に残りやすい集落を集計したものである。今回の分析には、各集落の好印象に残りやすいと選ばれた票数と悪印象に残りやすいと選ばれた票数の差を求めるとして点数化を行った。この際に、好印象・悪印象共に票数の入らなかった集落E(パンウン里)は対象外とした。この2つの集計を元に、印象に残りやすい集落と龍脈の見えに関するクロス表(表6)を作成し、カイ二乗検定を行った。結果、 $X^2(3) = 8.889, p < 0.05$, Cramerの相関係数 $V = 0.745$ の値が得られ、龍脈が見えと、好印象に残りやすい集落には有意な関係性がみられた。

表5 各種評価点数

集落	一対比較による印象順位得点	風水吉凶による点数	好印象票数-悪印象票数	龍脈の見え
A	7	3	2	1
B	17	3	12	1
C	9	3	1	1
D	1	-1	-14	1
E	14	3	0	1
F	4	0	-9	1
G	5	2	-2	1
H	16	3	13	1
I	15	3	1	1
J	13	5	19	1
K	8	3	0	0
L	12	5	4	1
M	6	1	-9	0
N	3	4	-13	0
O	10	2	2	1
P	2	4	-11	0
Q	11	3	4	1

表6 クロス表

龍脈の見え	好印象票数-悪印象票数	-14~-10	-9~-3	-2~9	10~19
0(視認できない)		2	2	0	0
1(視認できる)		1	1	7	3

5. 総括

本稿では、印象評価実験の結果を元に、風水理論と風水集落を俯瞰した際の景観に対する印象の関係性について分析を行った。3章では、印象評価実験の結果から活龍をもつ集落と玉帯水をもつ集落の景観の特徴と、人に好印象を与える地形構造について明らかにすることができた。4章では、相関分析やカイ二乗検定といった方法で一対比較法による印象順位と風水の吉凶の関係性と好印象を与える集落と龍脈の見えの関係性について分析を行い、両者には有意な関係性がみられることが明らかとなった。

【参考文献】

- 1) 野村優太・佐藤誠治・樋口夏希・矢次延行：「印象評価による風水景観の特性把握に関する研究—韓国農村集落における風水景観に関する研究 その16—」, 2013.12
- 2) 呉佳綺・山道帰一：「完全定村実践風水地理大全」河出書房新社

【補注】

- 注1) 穴とは風水の要諦であり、風水ではここに墓や家を作ることで良い影響が得られると考えられているので、風水の術はこの穴を探すことを目的としている。
- 注2) 明堂：龍穴の前方の空間のこと
- 注3) 集落から主山を背にして見て、左側の山が青龍、右側が白虎、向かい側が朱雀とされている。
- 注4) 前稿より、悪印象をもたらす要素として「シンボリックな要素の欠落」が挙げられている。その点、観光地として整備が行われているこの集落は、屋根色の統一など建造物の規制が行われており、目を要素が作られにくい状態にあり、他の集落と同条件でない為、除外した。

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*2 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

*3 大分大学工学部福祉環境工学科 助教 博士(工学)

*4 大分大学工学部福祉環境工学科 教授 工学博士

*1 Graduate Student, Oita Univ.

*2 Undergraduate Student, Oita Univ. Professor,

*3 Research Associate, Dept of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng

*4 Dept of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng